

10.九州（地域別調査機関：（財）九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明	
家計 動向 関連	良く なっている	-	-	-	
	やや良く なっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・イベント等の開催により、人の動きが活発になっている。	
		一般小売店〔青果〕（店長）	販売量の動き	・客単価が増えてきており、野菜の売行きが特に良い。	
		一般小売店〔生花〕（経営者）	単価の動き	・開業以来、母の日以外でインターネット販売の売上が最も良かった月である。新規の客も増えている。	
		スーパー（店長）	単価の動き	・衣料品の動きが良くなっており、輸入品の高級時計やハンドバックなどもかなり売れた。全体的に客単価が上がっている。	
		衣料品専門店（総務担当）	来客数の動き	・ヤング、婦人服ともに秋物衣料の売上が好調となっており、着物、呉服、宝石も前年比10%増となっている。来客数も増加している。	
		家電量販店（店長）	販売量の動き	・客数と客単価がここ数か月間、上昇傾向である。	
		家電量販店（企画担当）	お客様の様子	・薄型テレビ、DVD、新型の洗濯機等に人気が出てきており、販売量も増えている。	
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（統括）	販売量の動き	・ガソリンの高騰による買控えも減り、現金で購入する客が増えてきた。	
		一般レストラン（スタッフ）	お客様の様子	・客単価、利用回数ともに増えている。	
		その他飲食〔居酒屋〕（店長）	お客様の様子	・好天と焼酎ブームにより客が増えた。	
		タクシー運転手	来客数の動き	・全体的に稼働が良い。特に日中の稼働が良く、売上が上がっている。ただ夜の動きはあまり良くない。	
		ゴルフ場（従業員）	来客数の動き	・予約状況が前年比10%増となっている。特に韓国等、海外からのツアー客が南九州において多くなっている。	
		競輪場（職員）	販売量の動き	・入場者が増加傾向にある。	
		設計事務所（所長）	来客数の動き	・企画や計画等の相談が少しずつ増えている。	
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・販売量、契約数がやや増加している。	
		変わらない	商店街（代表者）	来客数の動き	・商店街の人通りは増えず、空き店舗の数も変わらない。
			商店街（代表者）	来客数の動き	・隣接するスーパーの安売りなどが影響して、来客数がかかり減少している。残暑が厳しく、客の購買意欲も沸いていない。
			商店街（代表者）	単価の動き	・衣料品関係が少し動いているが、客単価は上がらず利益は少ない。
			商店街（代表者）	来客数の動き	・来客数が増える時期であるが、今年は増えていない。
			商店街（組合職員）	お客様の様子	・郊外に競合店がオープンしてから数日間、商店街の人通りが激減した。
			一般小売店〔鮮魚〕（店員）	それ以外	・大型店が開店し、ますます悪くなっている。
			百貨店（営業担当）	販売量の動き	・来店客数は回復傾向にあるが購買に結びつかず、全店割引催事を行っても売上に結びつかない。秋物衣料の動きもなく、客の購買意欲は乏しい。
			百貨店（販売促進担当）	単価の動き	・客単価が大幅に落ちており、割引商品は売れるが、定価商品の動きは鈍い。
			百貨店（営業企画担当）	販売量の動き	・地元球団関連セールは、昨年より集客ができたが、セール対象外商品の売行きが低迷している。
			スーパー（店長）	単価の動き	・来客数は横ばいであるが、売上が落ちている。
			スーパー（総務担当）	お客様の様子	・気温がなかなか下がらないため、秋冬物の動きが鈍く、客の購買意欲も乏しい。
		スーパー（企画担当）	来客数の動き	・競合店の出店と価格攻勢の影響で客数、客単価が減少した。また、残暑が長引いたことにより、鍋物商材の動きが悪かった。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明	
		コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・値引き商品による一品プラスの購入が依然低い。	
		衣料品専門店（店員）	単価の動き	・秋物商品の動きが例年より遅く、客単価も低迷している。	
		衣料品専門店（店員）	販売量の動き	・秋物の立ち上がりが遅れたが、今月中旬から急に寒くなり、来客数が増えた。地元球団関連セールもあり、販売数も増えたが、客単価が低いため売上は横ばいである。	
		家電量販店（総務担当）	お客様の様子	・原油高の影響により石油暖房商品が全く動かない。	
		乗用車販売店（管理担当）	お客様の様子	・イベントの開催等で客数はますますであるが、ガソリンの高騰によりコンパクトカーが良く売れ、大型車はなかなか売れない。	
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（統括）	販売量の動き	・ガソリンの高騰により、2回に1回はセルフを利用する顧客が増えている。単価が安いところにシフトする傾向が出ている。	
		テーマパーク（職員）	来客数の動き	・大型団体のコンベンション利用が目減りしており、その分を個人旅行が補っている状況である。プライダル関連とゴルフ関連は好調である。	
		観光名所（職員）	来客数の動き	・団体客数が減り、少人数の客が増えており、観光施設の入園者は前年を下回っている。個人客については昨年並みである。	
		ゴルフ場（スタッフ）	単価の動き	・コンペ等は、単価を下げればある程度予約が見込める。個人予約も同じ傾向である。	
		競馬場（職員）	来客数の動き	・来客数も、購買単価についても、相変わらず減少傾向にある。	
		設計事務所（代表取締役）	お客様の様子	・公共事業については、地方公共団体の財源不足により、予算が低く発注されている。民間企業側では過当競争により通常では考えにくい低価格で受注しており、合理化が迫られ、企業経営上無理が生じている。	
		住宅販売会社（従業員）	単価の動き	・土地の売買は上向いているが、客単価は減少傾向にある。	
		やや悪くなっている	百貨店（売場主任）	お客様の様子	・秋物の動きが極端に悪い。通常であればセーターの動きが良くなる時期であるが、カットソーの販売量がそれをしのぐ状況で、売上は上がらなかった。
			百貨店（営業担当）	来客数の動き	・郊外の大型商業施設の影響で、中心部の来街者は減少した。特に週末は激減している。
百貨店（売場担当）	販売量の動き		・売上は催事等の強化により、前年比99.6%となった。上旬は秋物衣料の動きがかなり鈍かった。来客数は催事の影響により前年比99.5%となった。		
百貨店（業務担当）	販売量の動き		・季節の変わり目と、商品の入替えのタイミングがずれてきており、販売量の勢いは失速している。		
スーパー（経営者）	販売量の動き		・大型商業施設の開店で客の流出が激しくなっている。それに伴い、客単価は低迷し販売点数が低下している。		
スーパー（店長）	単価の動き		・競争激化により、野菜の単価が低下している。買上点数も数%減少しており、野菜の売上が減少傾向にある。		
スーパー（店長）	販売量の動き		・客数は横ばいから若干増えてきたが、客単価がいまひとつ伸びない。		
コンビニ（エリア担当）	お客様の様子		・行楽シーズン中、去年は手軽な400円前後の弁当や、200円前後の総菜サラダが売れていたが、今年は低単価のおにぎりや100円台のコンパクトなサラダ等が売れており、若干ではあるが客は低価格志向であった。		
衣料品専門店（店長）	販売量の動き		・気温が平年並みになり、秋冬物がやっと動き出したが、前年に比べ売上は減少している。		
自動車備品販売店（従業員）	来客数の動き		・ガソリン高騰の影響が徐々に出てきている。		
住関連専門店（経営者）	単価の動き		・恒例の催事があり、来客数は良かったが、客単価が低かった。		
通信会社（業務担当）	お客様の様子		・以前は、1年サイクルで携帯電話を買替える客が多かったが、最近は2、3年使用し、壊れる寸前にならないと買替えをしない客が多くなった。		

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	悪くなっている	一般小売店〔青果〕（店長）	単価の動き	・安値商品を購入する客が多い。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・衣料品、特に秋物がほとんど動かない状況で、前年比89.9%で推移している。やっと寒くなってきたが、秋物衣料がかなり残っていて苦戦中である。食品に関しては昨年の相場と違い青果を中心に前年比70%台で推移しており、青果と精肉が厳しい状況である。
		高級レストラン（経営者）	競争相手の様子	・例年長崎では10月のおくんちを中心に忙しくなるが、近所の店では一番ピークであるお祭りの前日でも休業した店があった。
企業動向関連	良くなっている	精密機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・受注量自体が若干増え、新しい仕事も増え始めた。
		広告代理店（従業員）	受注量や販売量の動き	・売上が前年比2ケタ増となった。
	やや良くなっている	家具製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・大型ホテル物件の受注が続き、前年比15%以上の伸びとなった。来年度も物件は続く予定であり、動きは非常に活発である。
		鉄鋼業（経営者）	受注量や販売量の動き	・7、8月末にかけて成約した受注残が多くあるため、販売量は順調に推移している。しかし新規物件に乏しく、引合、成約が低調になってきた。
		建設業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・工事請負件数が増えてきた。特に個人住宅のリフォーム、美容室のリフォーム、店舗のリニューアル関連が伸びている。依頼がきても受注できない状態である。
	変わらない	金融業（営業担当）	取引先の様子	・銀行の取引先で製造業、建設業ともに売上高が前年より増加傾向にあり、また設備の資金需要の情報もある。
		金融業（得意先担当）	取引先の様子	・当地区は建設業関係の業種が多く、災害復旧関連工事が最近よく見受けられるようになった。台風に伴うものであるが、その工事を引当とする資金需要もみられるようになった。
	変わらない	農林水産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・年末向けの商品作りの時期であるが、卵の値段の高騰など原料不足で工場の稼働が悪い状態である。3か月前に比べると3分の2くらいの稼働である。
		農林水産業（従業員）	受注価格や販売価格の動き	・現在は園芸作物の出荷初期段階であるが、台風の影響で出足は鈍い。販売価格の反応は現時点では鈍く、高騰する気配はないが、産地の中卸業者が先の品薄を予見し、値を上げ始めている青果市場もある。
		繊維工業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・思った以上に受注量、販売量が伸びていない。暖かいいせいもあり、冬物の売行きも悪い。
		窯業・土石製品製造業（経営者）	取引先の様子	・例年陶磁器業界では、最も荷が動く時期であるが、今年は専門店も量販店も昨年より悪く、夏場と変わらないような荷動きである。
		電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注は具体的に話は進むが、なかなか契約の段階までは進まない。
		電気機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・短納期での仕事量が増えており、仕事量としては十分に確保できている。
	やや悪くなっている	輸送業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・例年だと衣料品がよく動く時期であるが、今年は全く動かない。
		金融業（調査担当）	取引先の様子	・資金需要が低迷している。一進一退であった福岡県の貸出残高は8、9月と連続で対前年割れとなった。
経営コンサルタント		受注量や販売量の動き	・市内の関係先の様子をみると、売上と客数がかかり減っている。近隣に大規模な店舗ができ、市内中心部を中心に人通りが少ない状態が続いており、かなり客を取られている。	
悪くなっている	-	-	-	-
	-	-	-	-
雇用関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	人材派遣会社（社員）	雇用形態の様子	・各社直接雇用のため、人材紹介を積極的に行っており、男性の営業関連の仕事が供給不足となっている。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・北九州空港開港を控え、企業の活動が活発になってきており、関連の求人などが増える。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・月間有効求人倍率は前月より0.07ポイント上昇し1.13倍で、平成4年の3月以来の高い水準である。前年比では36か月連続プラスとなっており、改善傾向が継続している。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人は堅調に推移しており、新規高卒求人も前年比26%増加している。
		民間職業紹介機関（支店長）	求人数の動き	・一般事務系に加え、金融機関からの派遣需要がおう盛である。職种的には金融経験者は引く手数多の状態である。営業職、店頭販売職も年末商戦対応の需要が急増している。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	求職者数の動き	・待機スタッフの状況をみても長期的なアルバイトに就業しているケースが多く、仕事が見つかりやすい状況であるが、景気が上向いている状況にまではいかない。
	やや悪くなっている	職業安定所（職員）	求職者数の動き	・新規求職者数は本年4月以降毎月、前年比2ケタ台の大幅な増加を続けている。
		職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・原油価格の高騰が製造業・輸送業を始め悪影響を及ぼしている。
	悪くなっている	-	-	-